

分科会 A

発表順	A-1 ①	
氏名	所属	タイトル
米満 潔 古賀 崇朗	佐賀大学	オンライン授業でのグループ活動における学生間相互評価の実践
<p>概要：</p> <p>筆者らは、2020年度に発生した新型コロナウイルス感染拡大を契機に現在までリアルタイム形式で行う回とオンデマンド形式で行う回を組み合わせる形態のオンライン授業を実践している。学生は、オンデマンド形式の回はテーマに沿った動画視聴や配布資料参照などで知識を獲得し自分の意見をレポートとして提出し、リアルタイム形式の回は提出したレポートをもとにWeb会議システムのブレイクアウトセッションおよびオンラインホワイトボードを活用しグループ活動を行う。2021年度までは学生個人での振り返りが十分に行えていなかったため、2022年度からはオンラインでレポートを学生間で相互評価することで学生の振り返りの度合いを深めるとともに、多様な意見に触れることで複数の視点から事象を捉えてまとめる能力の涵養を目指している。ここでは、2022年度に導入したグループ活動における学生間相互評価手法の実践について報告する。</p>		
発表順	A-1 ②	
氏名	所属	タイトル
角田 咲良	全国大学生協連	「届けよう！コロナ禍の大学生生活アンケート」から見る、大学生の今
<p>概要：</p>		
発表順	A-2 ①	
氏名	所属	タイトル
池本健太郎	鹿児島大学大学院理工学研究科	Bluetoothにより検出される来店客数を用いた生協食堂の待ち時間の推定
<p>概要：</p> <p>本学の生協食堂では昼食の時間帯の利用集中のため、食事を受け取るまでに長い待ち時間が発生する。先行研究において物体認識のAIを利用してカメラ映像に映る利用者の数・動きから待ち時間を導出していたが、店内のレイアウト変更によりAIが対応することは難しく、待ち時間の誤推定が発生するようになった。本研究では、レイアウト変更の影響を受けることのない待ち時間の推定を目的として、Bluetoothを用いて検出される来店客数から待ち時間を出力するニューラルネットワークを構成する。先行研究のBluetoothによる来店客数の検出が高精度であるため、精度の高い待ち時間の導出も期待できる。</p>		
発表順	A-2 ②	
氏名	所属	タイトル
高橋 文徳	尚綱大学短期大学部総合生活学科	「AIに対する意識調査」の分析
<p>概要：</p> <p>筆者が所属する女子大において、AIに対する意識調査を行った。2020年に消費者庁が実施した「AIに対するイメージについて」と同様の調査を実施したが、その結果には差異が見られた。特に「不安である」と回答する割合が高いことに着目した。その原因を探るべく、AIの不安要素を「漠然とした不安」から「具体的な不安」まで明確に示し、再度の調査を行った。</p>		